

キバシリ *Certhia familiaris* Linnaeus

【選定理由】

県内の繁殖地として段戸裏谷の原生林が知られているが、ここでの繁殖数は 2 ペア程度と推測されている。近年標高 700m 程度の別の複数の山でも、繁殖期に繁殖行動の確認例がある。また繁殖行動の確認までには至らないものの、繁殖期と思われる季節に標高 500m 余りの場所で複数の確認例もある。段戸裏谷以外の場所では継続した確認記録がなく、一過性の現象である可能性も否定できないが、いずれにしても県内における本種の生息数や繁殖個体数は極めて少ないものと思われる。

【形態】

全長 14cm。上面は黄褐色に汚白色と黒色の縦斑があり、下面は白い。眉斑は細く白く、嘴は細く下に湾曲し、尾は長くくさび型。

【分布の概要】

【県内の分布】

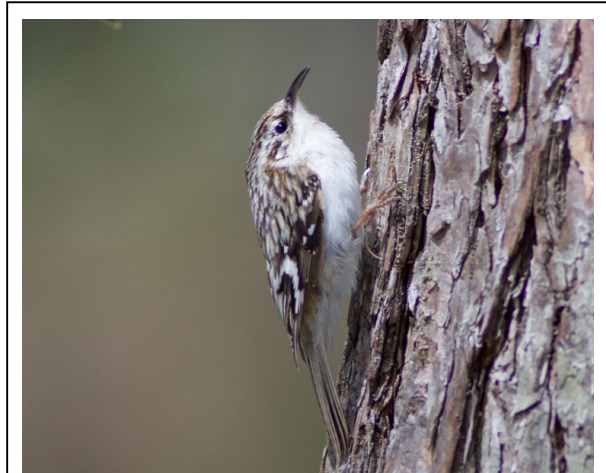
標高 1,000m 程度の原生林に周年生息するが、標高 700m 程度の山でも繁殖活動が観察されている。標高 500m 程度の場所でも繁殖期の観察記録がある。

【国内の分布】

北海道、本州、四国に分布するが、本州中部以南や四国では主に亜高山帯に生息する。

【世界の分布】

ヨーロッパからロシア南部、沿海州から日本にかけて分布し、主に留鳥であるが、北方で繁殖するものの中には、冬期南へ移動するものもいる。亜種キタキバシリ *C. f. daurica* は南千島と北海道に、亜種キバシリ *C. f. japonica* は本州以南に分布する。



長野県, 2011年5月2日, 杉山時雄 撮影

【生息地の環境／生態的特性】

本州では主に亜高山帯の針葉樹林に生息し、北海道では平野部でも見られる。県内で周年生息が確認されている段戸裏谷の原生林では、1975年にリョウブの樹洞で営巣が確認された。樹の幹に垂直に止まり、幹を回りながら登る習性がある。ピーピョピョ、ツリリ・・・と囀り、地鳴きはツーリリリッ、シリリッと聞こえる。

【現在の生息状況／減少の要因】

県内の安定した生息地としては段戸裏谷の原生林が知られるのみで、周年生息し繁殖も確認されているが、生息数は多くて 2 番い程度と考えられる。冬期もあまり移動しないと考えられるが、非繁殖期には希に村積山や六所山などでも記録がある。種本来の生息環境が亜高山帯針葉樹林ということなので、標高の低い愛知県では地球温暖化や開発により生息できる環境は容易に喪失する。

【保全上の留意点】

原生林や亜高山帯針葉樹林に近い環境は、本種に限らず県内で絶滅の危機にある多くの種の生息環境でもある。県内に残るこうした環境を保全し、道路の整備や開発を行う場合は環境に及ぼす影響を十分に考慮するべきである。また、近年こうした環境への入山者が増えていることから、必要に応じて立入制限等の措置を行ない、自然環境を保全することも必要である。

【特記事項】

本来の生息環境は亜高山帯針葉樹林とされているが、東三河にある標高 700m 程度の山でも繁殖行動の確認が 2 例あり、西三河にある標高 500m 程度の場所でも繁殖期の生息記録が複数ある。

【関連文献】

五百澤日丸・山形則男・吉野俊幸, 2014. 新訂 日本の鳥 550 山野の鳥, p.231. 文一総合出版, 東京.

（高橋伸夫）